

第47回応用物理学関係連合講演会 講演予稿集（2000.3. 青山学院大学） ©
The Society of Applied Physics

(Received 2000.2. 26; accepted 2000.3. 1)

28a-ZE-3

べき則強度照射された粗面からの散乱強度の相間特性

Correlation properties of intensities scattered from a diffuser illuminated by power-law intensities

北海学園大学 工学部

Faculty of Eng., Hokkai-Gakuen Univ.

Jun Uozumi
uoizumi@eli.hokkai-u.ac.jp

魚住 純

Jun Uozumi

円対称のべき則強度分布 $I(\rho) \propto \rho^{-D}$ (ρ は光軸からの距離) を持つコヒーレント光を粗面などの平面散乱体に照射すると、 $1 < D < 2$ において、その自相場にはフラクタル性を有するスペックルパターンが生成することが、理論および実験により示されている。¹⁻³⁾ 今回、より広い範囲の D に対する散乱強度の相間特性を明らかにするため、計算機シミュレーションによる解析を行った。

散乱面による位相変調を $[-\pi, \pi]$ の一様分布に従う乱数行列で表し、べき則の特異性を避けるため、照射光の複素振幅を $A(\rho) = [1 + (\rho/\rho_0)^2]^{-D/4}$ として、フーリエ変換場の散乱強度を FFT により求め、その強度ゆらぎの自己相関を計算した結果を Fig. 1 に示す。 $1 < D < 2$ に見られるべき開数的減衰は強度ゆらぎのフラクタル性を示しており、これまでの理論および実験の結果と一致している。また、理論予測ほどおり、 $D > 2$ ではべき開数的減衰は失われている。一方、 $D \leq 1$ には、極めて急速ながら、べき開数的減衰が見られる。

1) J. Uozumi et al., Proc. SPIE, 3749, 322 (1999); J. Uozumi, Proc. SPIE, 3904, 320 (1999).

2) K. Uno et al., Opt. Commun., 124, 16 (1996). 3) J. Uozumi et al., Opt. Commun., 156, 369 (1998).

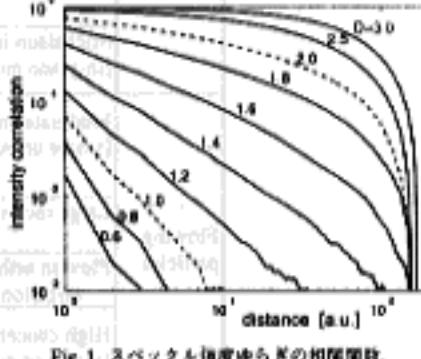


Fig. 1. スペックル強度ゆらぎの相間関数。